

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1475100119
法人名	株式会社 アイ.ディ.エス
事業所名	グループホーム 第2バナナ園
訪問調査日	平成19年8月16日
評価確定日	平成19年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1475100119
法人名	株式会社 アイ.ディ.エス
事業所名	グループホーム 第2バナナ園
所在地	212-0055 川崎市幸区南加瀬3-7-23 (電話) 044-587-1773

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年8月16日	評価確定日	平成19年10月31日

## 【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	10 人 常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 3.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	125,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80歳	最低 68歳	最高 92歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みなとメディケア・クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は株式会社アイ・ディ・エスで、バナナ園と云う名前を冠した6つのグループホームを持っている。オーナーはグループホーム経営に大きな理想を持ち、その保有するノウハウを生かしてホーム運営を進めている。事業部制が尊重され、画一的なホーム運営はせず、施設の長にその運営の自由を与えているため施設長のポリシーが反映された特色あるホーム展開が為されている。このホームは川崎市の東部でJR横須賀線新川崎駅から徒歩20分、東横線元住吉駅からバスで10分の住宅地にある。ホームは旧産婦人科医院を改良した1ユニットで定員は8名、3Fはケア付き高齢者住宅で訪問介護扱いで展開している。利用者、職員共に明るく、近隣との協調体制に気を配り、各種イベントは家族を巻き込んで行っている。音大生徒による音楽療法を実施し、ミュージックセラピーの効果で自己の意思表示、喜怒哀楽の豊かな表現を来春の卒論の実体験テーマとして取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>前回の評価でプロセスでカロリー計算等栄養面に關する管理にやや弱い(基本的管理は出来ている)との話があった点を受けて、外部配食会社にレシピ付きの配食を依頼することとした。カロリー、塩分、糖分が計算された配食と、栄養管理の指導を受けることが出来、栄養管理が確実に行えるようになった。また、買い物に要する時間が軽減されたことにより、余暇時間を有効にケアに活用出来るようになった。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>今回の評価に際し、通常の自己評価に加えて、近々実施する予定になっているグループホームでの認知症ダイサービスの導入についての検討、運営推進会議のテーマ設定などに関しても話し合い、単に自己評価に留まらず、幅広くグループホーム機能に関して話し合い評価に臨んでいる。結果はホームの運営に反映させて行く。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>運営推進会議については近所にある、同じグループのバナナ園と合同で開催している。地域との交流会(バナナ会)は以前から実施しているので、その交流会との並行開催を原則として考えている。運営推進会議のメンバーは自治会長、老人会長、民生委員は常任で、地域の参加可能な方々、参加可能なご家族で、第2回には地域包括支援センターからもご参加頂き実施した。主な討議内容はバナナ園グループの説明、第1・第2バナナ園の説明それに併設のバナナ会ではイベントを行っている。</p>
重点項目③	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>ご家族との連携については、日常の個人記録を月単位でお送りしている。記録は事実をありのまま書くように指導しており、経過が時系列で分かるようになっている。行動・機能等に変化がある時はケアマネのコメントも添えて随時お知らせし、変化への対応をご家族と一緒に進むべく訪問頻度の増加をお願いしている。別館だが、有償ボランティアで精神病を持った人を採用し、その子が作業も順調にこなせるようになり、一家の一員として受け入れられていることも特筆できる事柄である。</p>
重点項目④	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>地域との関係では平成18年度に町内会の理事を引き受け、町内会活動に参加したことで、近隣との距離が一挙に縮まった。それ以降、町内会がホームをバックアップしてくれている。この関係が今回の運営推進会議のスムーズな開催に繋がり、運営推進会議が更に地域との密着性を深めてくれた。イベントを開催し、ご近所の方の参加をお願いし、ご家族も交えて一緒に楽しむ体制も定着し、運営推進会議も並行開催して効果を上げている。南加瀬小学校、南加瀬中学校の生徒が総合学習で来てくれている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全事業所共通の理念がある。『自由』をもっとうに、その人らしく暮らしてゆけるよう理念を作り上げている。地域に密着し、地域の方にも理念を理解していただける様、交流を深めている。		今後も継続して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、ケア会議等においても、「その人らしく暮らしてゆけるには」と言う事が検討されており、随所に反映されている。		今後も継続して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。平成18年度に町内会理事を務め町内会活動に参加したことで、近隣との距離が一気に縮まった。社内定期刊行紙『バナナニュース』を毎月近隣へポストイングを行っている	○	今後も地域の祭事等に参加するなど活動の場を広げて行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員自己評価、及び外部評価を実施する意義を理解している。毎年評価を活かし支援に取り組んでいる		今後も、継続し、支援向上に努める
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については近所にある、同じグループのバナナ園と合同で開催している。地域との交流会(バナナ会)は以前から実施しているので、その交流会との並行開催を原則として考えている。主な討議内容はバナナ園グループの説明、第1・第2バナナ園の説明それに併設のバナナ会ではイベントを行っている。会議の内容が一方的にならないよう、気を配り開催している。	○	今後は参加者呼びかけの工夫や、内容を充実させるなど取り組み活かしてゆく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員の方も運営推進会議においても出席していただいている等、意見交換等行っている。川崎市『メール配信サービス』に登録するなど情報収集も行っている。	○	今後も市町村、地域の機関、ご家族との連携の中で情報収集し、サービスの質の向上に取り組んでゆく
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活記録、往診記録、服薬情況、個人会計、生活の様子(写真)などを毎月郵送している。		今後も継続して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の重要事項説明書内において記載・説明している。事業所内にも、市や国保連などにも相談窓口があることを掲示し説明している。意見を反映できるよう意見交換を充実する努力を続けて行く。		今後も継続して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者の信頼関係が構築できている為、管理者の入れ替えにより入居者が不穏に陥る事は無い(影響はない)。事業所も増えている為、管理者等は転勤等あるのはいたしかたない。今後もチームケアを充実し、入居者へのダメージ軽減や心のケア向上に努めて行く。		今後も継続して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部主催の講習会に参加(年5~6回)、事業所内勉強会(年6回以上)を実施している。また、社外講習会にも積極的に参加している。		今後も継続して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流は神奈川県グループホーム連絡会等に参加し、川崎に支部会が出来れば参加して行く。運営推進会議の開催や町内会に出席するなど、同業者以外との交流は行いサービスの質の向上に繋げている。		今後も継続して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に入居間もない方など、ご家族の協力もいただき、本人が安心してサービスを受けられるよう取り組んでいる。今後も家族と連携し安心した暮らしを提供して行く。		今後も継続して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何でも受け入れるのではなく、喜怒哀楽を共感出来る様支援している。レクレーションを通じ入居者同士の交流、支えあう関係を築いている。『生活の場』『第二の家庭』を演出できるよう今後も関係を構築して行く。		今後も継続して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族との話し合い、ご家族にも支援を協力(外出など)していただき検討対応している。		今後もご家族にも支援を協力していただき対応して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時などの時間を有効活用し、本人、家族、全職員の意見を聞き、それを反映した介護計画となっている		今後も継続して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを充実させるなど工夫し、必要な関係者と話し合い、ケア会議、朝礼を通じ検討し、現状に即した介護計画の見直しを常に行っている。		今後も継続して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	初めから無理と決め付けず、まず行ってみようという意識を共有し、工夫し、柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。地域への貢献も兼ねてグループホームでの認知症デイサービスの導入について検討をしている。	○	事業所としての多機能性を再度見直し、活かし、地域に密着した支援が出来るよう取り組んで行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導書(日常健康管理)として往診して頂いており、相談・指示等連携を行っている。日々の観察を強化し往診時に的確な情報伝達を行って行く。		今後も継続して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針をまとめてあり、各ご家族よりサインを頂き了解を得ている。また、健康状態の変化により悪化が予測できる場合は、ご家族に報告し対応方法を決めている。	○	今後ご家族に報告・相談を行ってゆく
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に応じ、さりげなく声掛けを行うなど対応している。		目立たず、さりげない声掛けや対応を今後も継続して行く
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で良質な刺激(生活リハビリやレクリエーション)を提供できるよう配慮した、基本的な1日の流れを組んでいるが、強制はしていない。	○	それぞれに応じた、日常生活のなかでの良質な刺激とは何かを常に検討し支援の幅を広げてゆく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付けの工夫を欠かさず行っている。配膳・仕度・後片付けは入居者と共に行っている。		今後も継続して「工夫を重ねて行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	あるていど時間は決まっているが、柔軟に、楽しんで入浴できるよう雰囲気作りを行っている。時間をある程度決めていることにより、見当識の支援にも効果がでているので、時間や曜日を定めることが間違った支援とは思っていない。要は、如何に工夫した支援を行うかであると思う		今後も工夫を重ねて行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	『音楽療法』、『おやつ作り』『外出レク(社会科見学)』などレクリエーションの幅を広げ支援している。現在新たに、達筆な入居者様を先生とし『書道教室』を始めている。生き生きとした姿、新たな入居者同士の連帯感が構築できるよう教室の開き方を段階を通して行うなど、工夫している。		今後も工夫を重ねてゆく
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添い散歩や外出レクリエーションを行っている。翌日など約束する事でカレンダーなどを見ながら、それまでを楽しみに意欲的に過ごされる事も多くある為、当日実行するだけではない支援も行っている。但し、約束した事を守るよう職員も気をつけ支援している。		今後も希望に添えるよう支援して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	直ぐ側の十字路では年間車の衝突事故、人身事故が多発している危険な場所であることもあり、入居者一人での外出はさせていない。また、ご家族にも説明しており了承を得ている。外出の際は、職員またはご家族同伴のもと行っている。今後も、防犯を兼ね自宅と同じく鍵を掛けるが、外出希望の場合は意思に添えるよう支援して行く。		今後も継続して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年消防点検を行い非難時に備えている。	○	地域との連携は今後も強化に取り組んで行く必要がある。避難訓練など、消防署を通じ行う必要がある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、配食サービスを利用し改善がなされている。(栄養管理された献立と、食材が届き、施設内で調理している)	○	配食により、買い物時間が軽減されたので、余暇時間を有効なケアに活用して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設を感じさせないように各所工夫を凝らし演出している。(エントランスには、園芸コーナー設置。談話室には皆で作成した作品を飾るなど)		今後も工夫を重ね環境支援してゆく
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時だけでなく、継続して本人の嗜好品を増やし安心して過ごせる環境づくりをしている。今後も嗜好品を増やす等、安心して過ごせる環境作りを支援して行く。		今後も継続して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 第2バナナ園
所在地 (県・市町村名)	212-0055 川崎市幸区南加瀬3-7-23
記入者名 (管理者)	大浦 勝子
記入日	平成 19 年 8 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全事業所共通の理念がある。『自由』をもつとくに、その人らしく暮らしてゆけるよう理念を作り上げている	○	社外、地域の方にも理念を理解していただける様に、交流してゆきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、ケア会議等においても、「その人らしく暮らしてゆけるには」と言う事が検討されており、随所に反映されている。	○	今後も継続
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	社内定期刊行紙『バナナニュース』、ホームページ、介護報告を通じ取り組んでいる	○	運営推進会議を発展させるなど今後も理解の幅を広げてゆく
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	全職員、近隣への挨拶マナーを重んじ、気軽に声を掛けて頂けるよう努めている 施設内の環境面に於いても、施設を感じさせない雰囲気作りを行っている	○	今後も近隣との交流を深めていけるよう工夫してゆく
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる 町内会理事を務め地域活動に参加・交流(平成18年度) 社内定期刊行紙『バナナニュース』を毎月近隣へポストイングを行っている	○	今後も地域の祭事等に参加するなど活動の場を広げてゆく
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方たちに向け日頃から関係を深める様働きかけている	○	運営推進会議を発展させるなど今後も理解の幅を広げてゆく
---	--	-----------------------------	---	-----------------------------

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員自己評価、及び外部評価を実施する意義を理解している 毎年評価を活かし支援に取り組んでいる	○	今後も、継続し、支援向上に努める
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容が一方的にならないよう、気を配り開催している(結果)議事録は、ホームページにおいても公開している	○	今後は参加者呼びかけの工夫や、内容を充実させるなど取り組み活かしてゆく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員の方も運営推進会議においても出席していただいている等、意見交換等行っている 川崎市『メール配信サービス』に登録するなど情報収集も行っている	○	今後も市町村、地域の機関、ご家族との連携の中で情報収集し、サービスの質の向上に取り組んでゆく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケア会議等は、頻繁に行っているが権利関係について話し合うまでにはいたっていない	○	今後は権利関係についても勉強会、講習会参加等を通じ活用してゆく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者虐待防止法(2006.4)』を回覧し注意を払っている	○	今後も朝礼やケア会議において継続的に話し合い取り組む

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、施設の見学、本人との面接を欠かさず行い、その際に説明している	○	今後も、不安軽減を考慮した対応に努める
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載しているだけでなく、説明を行っている	○	介護相談員の受け入れを検討
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活記録、往診記録、服薬情況、個人会計、生活の様子(写真)などを毎月郵送している	○	今後も継続
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の重要事項説明書内において記載・説明事業所内にも、市や国保連などにも相談窓口があることを掲示し説明している	○	意見を反映できるよう意見交換を充実させていく
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議・朝礼を通じ意見を出し反映できる場を作っている	○	今後も各方面の意見を聴き、反映させていく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	支援継続・充実を図る為にも、無理の無いローテーションを組めるよう取り組んでいる	○	今後も臨機応変に取り組めるシフトを調整していく
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者の信頼関係が構築できている為、管理者の入れ替えにより入居者が不穏に陥る事は無い(影響はない)事業所も増えている為、管理者等は転勤等あるのはいたしかたない。	○	今後、入居者様へのダメージ軽減に努める 今後も、心のケア向上に努める
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部主催の講習会に参加(年5~6回) 事業所内勉強会(年6回以上) 実施している	○	今後も、事業所内勉強会を充実させる。 また、社外講習会にも積極的に参加してゆく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の開催や町内会に出席するなど、同業者以外との交流は行いサービスの質の向上に繋げているが、同業者の交流は乏しい。	○	今後は、他社同業者との交流も行ってゆきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の仕事の中で、朝礼の場を意見を出せる場と時間とし、ストレス軽減を図っている。	○	今後も継続
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	シフトの調整や健康管理(健康診断)、意見を繁栄できる話し合いの場を設けるなど、工夫している	○	今後も継続して取り組んでゆく

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の意思よりも、ご家族の意向が前面に出ている場合が多く、本人よりご家族の意向を反映させている場合がある	○	本人の意思を聞き取る機会を増やす等改善して行く
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時などには、接する時間を設け意見・要望・不安を聞き取るよう努めている	○	他のサービス期間とも連携し対応していく
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、見学していただき施設の様子を知っていただき、説明を交えながら不安や求めている事を把握できるように取り組んでいる	○	今後も取り組んでゆく

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に入居間もない方など、ご家族のも協力していただき、本人が安心したサービスを提供できるよう取り組んでいる	○	今後も家族と連携し安心した暮らしを提供していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何でも受け入れるのではなく、喜怒哀楽を共感出来る様支援している レクリエーションを通じ入居者同士の交流、支えあう関係を築いている	○	『生活の場』『第二の家庭』を演出できるよう今後も関係を構築していく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報交換を行う中で、入居前の苦労を共感するなど関係構築に努めている	○	今後も入居者様だけでなく、ご家族とも信頼関係構築に努める
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時の対応や環境面の工夫を行い、気軽に来る事ができる環境づくりを行っている 報告・相談を交えながら、支援を行っている	○	今後も、面会時や介護報告等を有効活用し、情報交換、暮らしぶりの報告(介護報告)を充実させ支援できるようにしていく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会を楽しみにされている入居者が多く、面会だけでなく外出、外泊の自由も説明し行っている	○	今後も継続
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気軽に集まれる談話室や、おやつ作りや貼り絵など共同作業のレクリエーションを通じ	○	個性をうまく捕らえグループ行動も出来る様支援を試みる
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後は関係が断続している方が殆どである	○	今後は、手紙や定期刊行紙、講習会案内などを利用し、関係継続を試みて行く

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族との話し合い、ご家族にも支援を協力(外出など)していただき検討対応している	○	今後もご家族にも支援を協力していただき対応してゆく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在施設へ持参していただいている嗜好品だけでなく、もっと嗜好品を増やし、認知症進行軽減や安心した暮らしに役立てていく必要性を感じている 生活歴をもっと調査する必要があると取り組んでいる	○	今後生活歴の調査と共に、嗜好品を探り増やしてゆく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタル、食事・水分摂取量、排泄等、各種チェック表や生活記録、業務日誌等にて日々総合的に把握できるよう努めている また、職員間では、各記録をチェックするだけでなく朝礼等で報告・検討し合い把握に努めている	○	今後記録するだけでなく、記録を活かした支援向上に努める

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、全職員の意見を反映した介護計画となっている	○	今後面会時などの時間を有効活用し、充実させてゆく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア会議、朝礼を通じ検討を常に行っている	○	モニタリングを充実させるなど工夫し、必要な関係者と話し合う機会を増やし充実させてゆく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録にて情報を共有している。また、朝礼、ケア会議等で常に検討しあっている	○	今後検討した結果を反映できるよう取り組んでゆく

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	初めから無理と決め付けず、まず行ってみようという意識を共有し、工夫し、柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる	○ 事業所としての多機能性を再度見直し、活かした支援が出来るよう取り組んでゆく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	専門の音楽療法士(ボランティア)と協力し支援を行い、新たな支援の方向性を見つけ支援の幅を広げている 音楽療法(毎週)	○ 他の期間とも交流してゆく中で支援の幅を広げて行く
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社内に複数の事業所があり、ケアマネ会議や管理者会議等を通じ話し合いサービスの支援に取り組んでいる	○ 今後は社内だけでなく、各方面に出向き支援向上を図る
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの交流が無い	○ 今後は地域包括支援センターとの交流も行ってゆく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導書(日常健康管理)として往診して頂いており、相談・指示等連携を行っている	○ 日々の観察を強化し往診時に的確な情報伝達を行ってゆく
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	24時間連携できる医師・看護師がおり指示を受けたり相談を行っている (居宅療養管理指導を行っていただいている往診Dr.が心療内科のDr.である)	○ 今後も協力して入居者様の健康管理を行ってゆく
	○看護職との協働		



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間連携できる看護師と提携している 介護支援専門員と看護師間だけでなく相談できる関係を築いている	○	記録を充実させ連携強化、支援向上を図る
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の主治医と連携し、入院中から退院に向けた支援の準備(リハビリ等の準備)を行い対応している	○	今後も継続して取り組んでゆく
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針をまとめてあり、各ご家族よりサインを頂き了解を得ている また、健康状態の変化により悪化が予測できる場合は、ご家族に報告し対応方法を決めている	○	今後もご家族に報告・相談を行ってゆく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまでも、日常健康管理の記録を行い、異変・変化の早期発見に努めている。その中で異変時などには、医師に報告・相談し、指示を受け、異変の度合いによっては、ご家族との協議の上、今後についての支援・方向性を決定している	○	今後も連携を密にし、ケア会議、カンファレンスを通を重ね支援してゆく
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在は住み替えによるダメージを防ぐ支援は成功している 『嗜好品の活用』や『もう一つの家庭』の演出、孤独を感じさせない『心のケアの工夫』を常に行っている	○	今後も継続して取り組んでゆく
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に応じ、さりげなく声掛けを行うなど対応している	○	目立たず、さりげない声掛けや対応を今後も継続して行く
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中での『ふれあい』を通じ、本人の希望を表しやすい状況の中要望等を聴き、納得し暮らしてゆけるよう支援している	○	今後も、身体ケアに終われず、心のケア『ふれあい』の場面をつくり、希望等を引き出し支援してゆく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で良質な刺激(生活リハビリやレクリエーション)を提供できるよう配慮した、基本的な1日の流れを組んでいるが、強制はしていない	○	それぞれに応じた、日常生活のなかでの良質な刺激とは何かを常に検討し支援の幅を広げてゆく
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好きな服を選んできていただいている 美容院等は家族とのふれあいの一環として、ご家族と馴染みの美容院へ連れて行っていただくなど支援している	○	例えば、散歩の時に行く前に化粧を試みるなど、身だしなみへの刺激を促し、観察し支援に取り組みたい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付けの工夫を欠かさず行っている 配膳・仕度・後片付けは入居者と共に行っている	○	今後も工夫を重ねてゆく
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ作りのレクリエーションや近所への買い物を通じ支援している	○	今後も嗜好を把握し支援してゆく
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗がある場合はトイレ誘導・介助の回数を増やす等対応している、排泄チェック表に記録し、排泄パターンの把握に努めている 介護者の都合でオムツの使用を増やしたりしない様、全職員取り組んでいる	○	今後も支援継続
	○入浴を楽しむことができる支援	時間等決めてしまっているか、楽しんで入浴できるよう雰囲気作りを行っている		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気作りを行っている 時間をある程度決めておくことにより、見当識の支援にも効果がでているので、時間や曜日を定めることが間違った支援とは思っていない。 要は、如何に工夫した支援を行うかであると思う	○	今後も工夫を重ねてゆく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的な『1日の流れ』を組んでいるが強制はしていない 常に本人の状態に応じ対応している	○	今後も観察のもと、強制せず支援を行う
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	『音楽療法』、『おやつ作り』『外出レク(社会科見字)』などレクリエーションの幅を広げ支援している 現在新たに、達筆な入居者様を先生とし『書道教室』を始めている 生き生きとした姿、新たな入居者同士の連帯感が構築できるような教室の開き方を段階を通して行うなど、工夫している	○	今後も工夫を重ねてゆく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の入居者様が育ってきた時代背景など所持金を持たない生活の不安や大切さを理解している しかし、認知症における金銭管理の大変さも体験を通じ実感しており、現在も試行錯誤している	○	今後も諦めずに試行錯誤し、本人なりの金銭管理を探ってゆく
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添い散歩や外出レクリエーションを行っている 翌日など約束する事でカレンダーなどを見ながら、それまでを楽しみに意欲的に過ごされる事も多くある為、当日実行するだけではない支援も行っている 但し、約束した事を守るよう職員も気をつけ支援している	○	今後も希望に添えるよう支援してゆく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族が気軽に外出を申し出る事が出来るような関係作りを行っている	○	ご家族が忙しく、なかなか普段いけないところに外出できない方に対しては、個別支援としての外出も検討してゆく
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承のもと支援を行っている	○	本人の言葉通りの要望を支援するだけでなく、心理背景も察し日常生活の中で取り組める支援も考えてゆく
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が気軽に外出を申し出る事が出来るような環境を作っている	○	今後も、工夫し取り組んでゆく
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロへの手引き』(厚生労働省)を基に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○	今後も理解を深め対応してゆく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	直ぐ側の十字路口では年間車の衝突事故、人身事故が多発している危険な場所であることもあり、入居者一人での外出は禁じている また、ご家族にも説明しており了承を得ている 外出の際は、職員またはご家族同伴のもと行っている	○	今後も、防犯を兼ね自宅と同じく鍵を掛けるが、外出希望の場合は意思に添えるよう支援して行く
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者を確認できる位置で作業をするよう心がけ、職員間で連携し安全に配慮している 時系列の生活記録により、日勤⇄夜勤や休日後の職員でも把握できるよう記録している	○	今後もプライバシーに配慮し、支援を検討し支援してゆく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を取り除く際は、取り除くだけではなく、必ず代用品(嗜好品など)を置くことを検討し対応して行く	○	注意の必要な物品を取り除くだけでは、本人の周りに物品が何も無い状態になってしまう為、今後も代用品を検討しながら支援してゆく
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や朝礼(ミーティング)を通じ学び、取り組んでいる	○	様々な事故防止方法を学んでゆく必要がある 事故防止策の検討を重ねてゆく
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の連携・連絡体制の中で、医師の指示のもと応急手当等を行っている	○	応急手当に対しても『技術向上』を目指し取り組んでゆく
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年消防点検を行い非難時に備えている	○	地域との連携は今後も強化に取り組んで行く必要がある 避難訓練など、消防署を通じ行う必要がある
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	介護報告・往診記録などをもとにご家族に報告し相談・説明している	○	今後のご家族へ報告・連絡・相談をご行い支援して行く
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様の異変や緊急時の対応は、往診主治医との24時間連携も含め、ルールを取り決めており、また実践している	○	『ひやりハット』として気づいたことを記録して行き、異変の『早期発見・対応』してゆく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや各記録、連絡ノートを通じ理解し服薬支援を行っている	○	今後は、副作用についても勉強し支援してゆく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操の時間ときめて行うだけでなく、日常生活動作を通じ身体を動かす工夫を心がけている	○	外出も含み、今後も体を動かす意欲がでる日常生活動作を見つけてゆく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの支援を行っている 自立度に応じ、声掛けや誘導、介助を行っている	○	今後も支援継続
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、配食サービスを利用し改善がなされている (栄養管理された献立と、食材が届き、施設内で調理している)	○	把握しやすい記録様式へ改良し、支援向上に向け取り組んでゆく
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルや勉強会を通じ学んでいる また、朝礼等を通して『資料』や『取り決めごとを伝達』し、実践している 基本的な手指衛生については、日々励行している	○	今後も職員の知識を高め励行して行く
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	配食サービスを利用している為、食材に関しては無駄なく使用できている 衛生管理マニュアルに従い衛生管理を行っている 例)食器を洗う際は、必ず次亜塩素酸を含んだ消毒液に浸し、洗い終わった後はしっかり乾燥させるなど徹底して行っている	○	これまでは、調理担当者個々の判断に任せている所もあるため、整理のルールを決め対応して行く

## 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### (1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	賃貸の為大胆なレイアウトは出来ないが、出来る範囲で行っている	○	玄関のレイアウトを工夫し立ち寄りやすい雰囲気を作ってゆく
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設を感じさせないように各所工夫を凝らし演出している (エントランスには、園芸コーナー設置。 談話室には皆で作成した作品を飾るなど)	○	今後も工夫を重ね環境支援してゆく
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室だけでなく、居室など思い思いに利用し過ごしている	○	今後も工夫を重ね環境支援してゆく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時だけでなく、継続して本人の嗜好品を増やし安心して過ごせる環境づくりをしている	○	今後も嗜好品を増やす等、安心して過ごせる環境を作ってゆく
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>定期的に、空調管理を行っている 全居室と主要箇所に湿度計・温度計を設置しチェックしている</p>	○	<p>今後も配慮を欠かさず環境支援を行ってゆく</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>PEAP日本版『環境支援(8つの次元)』を参考に、環境支援に取り組んでいる 見通しの良い廊下など機能訓練の場として利用するなど工夫している</p>	○	<p>今後も環境を利用し支援してゆく</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>小道具の利用、嗜好品の活用を通じ工夫している</p>	○	<p>新たな一面、支援の方向性を発見できるように今後も取り組んでゆく</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>日当たりのよい窓辺を利用し、思い思いに洗濯物を干せるよう工夫している</p>	○	<p>今後も工夫し支援継続してゆく</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)